

平成 21 年 7 月 15 日現在

研究種目：基盤研究（C）  
研究期間：2006～2009  
課題番号：18520337  
研究課題名（和文） ドイツ語の心態詞の意味・機能と音声的特徴  
および日本語との比較・対照  
研究課題名（英文） Prosody and Meaning of German Modal Particles Comparing with  
Japanese  
研究代表者  
生駒 美喜（IKOMA, Miki）  
早稲田大学・政治経済学術院・准教授  
研究者番号：90350404

研究分野：言語学・音声学  
科研費の分科・細目：言語学・言語学  
キーワード：心態詞、韻律的特徴、ドイツ語

#### 1. 研究計画の概要

ドイツ語の日常会話には、様々な話者の聞き手に対する心的態度をあらわす「心態詞」と呼ばれる語が多く用いられる。話し言葉において心態詞を用いる際、同時に音声的特徴が重要な役割を持つことが、以前から指摘されている。本研究では、ドイツ語の心態詞について、研究代表者がこれまで行った研究課題（若手研究(B) 課題番号 15720098）の成果と問題点を踏まえ、心態詞の意味・機能、音声的特徴との関連、さらに日本語との共通性を明らかにすることを目標とする。

具体的には 1) ドイツ語の心的態度を表す語の語用論的意味・機能の分析 2) ドイツ語の心的態度を表す語の音声的特徴及びその知覚の分析 3) 日本語の心的態度を表す語の意味・機能・音声的特徴との比較・対照の 3 点に絞って研究を進める。

#### 2. 研究の進捗状況

(1) 2006 年度は主として文献および音声の資料収集を行った。この資料収集作業と平行し、連携研究者の協力のもと、心態詞 schon を含む短文を用い、その意味・機能について、ドイツ語母語話者へのインタビューを行い、これまで集めた音声データを用いて知覚実験を実施した。また、心態詞 schon を含む短文について発話実験を実施し、音響分析を行い、持続時間、強さ、基本周波数を測定した。知覚実験の結果をまとめ、連携研究者と共同で口頭発表を行い、論文を執筆した。

(2) 2007 年度は前年度の音響分析作業を引き続き行った。また、ドイツ語母語話者 2 名の協力により、これまで収集した対話データ（自然発話）のトランスクリプションを行

った。このトランスクリプションを基に、心態詞の出現頻度や実際に用いられる意味・機能について分析した。音響分析および対話分析の結果をまとめ、2008 年 2 月に行われた学会にて連携研究者と共同で口頭発表を行った。

(3) 2008 年度前半は前年度末に口頭発表した内容をまとめて連携研究者と共著で論文を執筆した。2008 年度後半から 2009 年度 5 月末まで、研究代表者が産前・産後休暇のため、一時研究を中断した。

(4) 2009 年度（6 月以降）は、本来 2008 年度に行う予定であった schon の母音部分の音響的特徴の分析を行い、同時に、2007 年度までに集めた発話データを用いて再度知覚実験を進めている。知覚実験の結果をまとめ、2009 年夏に行われる学会にて研究代表者が口頭発表を行う予定である。

#### 3. 現在までの達成度

やや遅れている

理由：2008 年度後半～2009 年 5 月末まで、研究代表者が産前・産後休暇のため一時研究を中断した。このため、その期間行う予定であった知覚実験および音響分析作業が 2009 年度に行われることになった。

#### 4. 今後の研究の推進方策

産前・産後休暇のため中断した期間の分、2010 年度にも引き続き研究を行うため、基本的にはこれまで計画した通りに、連携研究者と協力しながら分析作業を進めたい。その際、大学院生等に分析作業の補助を出来る限りお願いし、できるだけ迅速に分析作業を進め、2010 年度は主としてこれまでの研究成果の

まとめを行う予定である。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

##### [雑誌論文](計2件)

1. Ikoma, Miki und Werner, Angelika (2009), „Prosodische Eigenschaften der modalen und temporalen Funktionen der Partikel *schon*.“ In: Abraham, W. und Leiss, E. (Hrsg.): Modalität: Epistemik und Evidentialität bei Modalverb, Adverb, Modalpartikel und Modus. Tübingen: Stauffenburg, Studien zur deutschen Grammatik 77. 223-247 頁. 査読有
2. Ikoma, Miki und Werner, Angelika (印刷中), „Modalpartikel *schon* - Experimente zur Sprecherintention und zur Wahrnehmungsinterpretation -“. In: Akten des 41. Linguistischen Kolloquiums in Mannheim 2006. Peter Lang. 査読有

##### [学会発表](計3件)

1. Ikoma, Miki und Werner, Angelika. „Prosodische Eigenschaften der modalen und temporalen Funktionen der Partikel *schon*.“ Dritte Tagung „Deutsche Sprachwissenschaft in Italien“, 2008年2月15日、イタリア・ローマ.
2. 生駒美喜. 「ドイツ語の心態詞 *schon* の発話に見られる韻律的特徴と意味・機能の知覚」日本音声学会2006年度(第20回)全国大会, 2006年10月1日, 東京・順天堂大学.
3. Ikoma, Miki und Werner, Angelika. „Modalpartikel *schon* – Experimente zur Sprecherintention und zur Wahrnehmungsinterpretation.“ 41. Linguistisches Kolloquium in Mannheim. 2006年9月6日, ドイツ・マンハイム.

##### [図書](計1件)

1. Ikoma, Miki. Prosodische Eigenschaften der deutschen Modalpartikeln. (Schriftenreihe PHONOLOGIA, Band 103) Hamburg: Dr. Kovač. 2007. 267 頁.